



鳥取県のマスコットキャラクター「トリピー」

全国学力・学習状況調査問題からの 先生方へのメッセージを受け取ろう

【どんな問題?】

- 学習指導要領の理念・目標・内容等に基づく、「**今、求められる学力**」を問題として出題。
- 教員による指導方法の改善や児童の学習改善・学習意欲の向上等に役立terるという視点から、学習指導上特に重視される点や身に付けるべき力を具体的に示すメッセージとなる問題を出題。
- 過去の問題で見られた課題を踏まえた問題も出題。

【どんなメリットがある?】

- 全国学調を分析することにより、どのような授業を行えばよいかという「**今、求められる学力**」の方向性を知り、授業改善につなげられる。
- 各設問の正答率や誤答の状況から課題の有無を把握し、学校における個々の児童への教育指導や学習状況の改善・充実等に役立てることができる。
- 質問紙調査では、学校としての取組や生徒の学習状況を客観的に数値として把握でき、それを学校運営や授業改善等に生かせる。

「今、求められる学力」を知り、ねらいを明確に意識した授業設計をしましょう!

令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果(小学校6年生)

(1)教科調査から

□ 公立学校教科別平均正答率 (%) (H28~H30 A:主として「知識に関する問題」 B:主として「活用」に関する問題)の平均正答率

	国語				算数			
	本県(公立)		全国(公立)		本県(公立)		全国(公立)	
R3	64		64.7		69		70.2	
H31	63		63.8		66		66.6	
	国語A		国語B		算数A		算数B	
H30	71	70.7	55	54.7	62	63.5	50	51.5
H29	76	74.8	57	57.5	77	78.6	46	45.9
H28	75.2	72.9	58.0	57.8	77.0	77.6	46.8	47.2

鳥取県の
状況は?



【国語】全国の平均正答率と差が見られない
【算数】全国の平均正答率を1ポイント以上**下回る**

□ 公立学校設問形式別平均正答率 (%)

	国語			算数		
	本県(公立)	全国(公立)	全国(公立)との差	本県(公立)	全国(公立)	全国(公立)との差
選択式 短答式	71.8	71.2	0.6	74.7	75.9	-1.2
記述式	38.2	40.2	-2.0	51.1	53.0	-1.9

選択式・短答式の問題に比べ、**記述式の問題**で全国の平均正答率を**下回る**状況

日々の授業の中で「学んだことを活用する力」を高めていく必要があります。

(2) 児童質問紙調査から 肯定的回答の割合(%)



質問紙調査について、「算数の学習が好き、よく分かったと回答した児童の割合を見てみると、ここ数年で格段に向上しています。
先生方の授業改善の成果です！

(3) 学校質問紙調査から 肯定的回答の割合(%)

「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況」の設問のうち、全国の肯定的回答の割合と大きく差のあった質問	県 (公立)	全国 (公立)	差
児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか	55.0%	68.3%	-13.3 ↓
児童に対して、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	78.3%	88.1%	-9.8 ↓
児童に対して、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか	65.8%	81.4%	-15.6 ↓
児童に対して、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習を、計画的に取り入れましたか	65.0%	73.1%	-8.1 ↓
児童に対して、各教科等の授業などで、調べたことや考えたことを800字(400字詰め原稿用紙2枚)程度で児童にまとめさせたことがありましたか	40.8%	55.4%	-14.6 ↓

「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況」の質問
12項目中10項目で全国の肯定的回答の割合を下回りました。
「主体的・対話的で深い学び」の視点における授業改善への意識が低い状況です。



「主体的・対話的で深い学び」は、優れた教育実践に見られる普遍的な視点です。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、授業改善をしていきましょう。

QRコードからダウンロードできます。



「何を学ぶか」だけではなく、「**何ができるようになるか**」、そのために「**どのように学ぶか**」を意識して、授業をよりよく改善していき、子どもたちの力を確実に育んでいきましょう。

11月15日に作成しました校内研修用の「研修パッケージ」をぜひご活用ください！

学校全体で課題を共有し、各教科における授業改善を進めていきましょう。



国語

力が付いている問題	県	全国	差
◆文の中における主語と述語との関係を捉える ③ 三(2)イ 文の中の主語を選択する問題	正答率 74.3%	67.0%	+7.3
◆学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う(げんいん) ③ 三(1)エ 文章の中の下線部を、漢字を使って書き直す問題(げんいんなのだと思います)	正答率 82.8%	79.0%	+3.8
課題が見られた問題	県	全国	差
◆目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける ② 三 文章を読み、文章と図表を結び付けて見付けたことをまとめて書く問題	正答率 29.9%	34.4%	-4.5
◆自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える ③ 一 文章の構成についての説明として適切なものを選択する問題	正答率 59.2%	64.8%	-5.6

- * 文章の中の下線部を、漢字を使って書き直す問題の中でも、「積み重ね」の問題は全国を大きく上回りました。(正答率 59.7% (全国 54.4%))
- * 「C読むこと」の問題は、3問すべてで全国平均を下回りました。
- * 無回答率が全国より高い問題が14問中3問ありました。



国語に関する児童質問紙の結果に注目してみましょう	県	全国	差
○国語の勉強は好きですか	60.7%	58.4%	+2.3
○国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか	66.5%	63.8%	+2.7
△国語の授業内容はよくわかりますか	84.0%	84.2%	-0.2
△5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	60.7%	63.5%	-2.8

全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、授業改善に取り組みましょう

◆目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける

◆文章を読み、文章と図表を結び付けて見付けたことをまとめて書くことに課題がありました。



<ポイント> 必要な情報は、目的に応じて変わるため、読む目的を明確にすることが重要です。必要な情報を見付けるためには、図表などが文章のどの部分と結びつくのかを明らかにした上で、文章と図表などの関係を捉えて読むことが大切です。その際、文章中の言葉と図表などの言葉を線で結び付けるなどして視覚的に理解できるようにすることが効果的です。

→令和3年度【小学校】授業アイデア例P7~8

◆文章全体の構成や展開を考える

◆自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考えることに課題がありました。



<ポイント> 自分が主張したいことは何か、それを支える理由や事例は何かを明確にし、その上で、理由や事例を、文章全体の中でどのように配置すれば自分の主張が効果的に相手に伝わるのかということを考えることが大切です。児童が自ら、自分の主張が効果的に相手に伝わるかを確かめることができるように、主張と理由や事例をカードに分けて書いたり、それらを並べ替えたりするなどの学習活動が有効です。

→令和3年度全国学力・学習状況調査報告書(小学校国語)P42~44

日々の「書く」における実践例

詳しくは、県教育委員会作成「研修パッケージ」をご覧ください。

「書くこと」のみならず、「話すこと・聞くこと」「読むこと」や〔知識及び技能〕の学習過程においても、「書く」活動の機会は多く見られます。個別の知識・技能を活用する力、必要な情報を自ら取り出す力、まとめたり自分の考えを表現したりする力等を総合的に育成するために、制限や条件を設けて書く機会を増やしましょう。

- ①時間制限 例、3分以内
- ②字数制限 例、80字以上100字以内
- ③内容・構成等 例、結論を先に述べる
叙述を2つ以上取り出す



- ・自由に書かせるのではなく制限や条件を設ける。
- ・経験を多く積みませ、絶対的な「書く量」を確保する。(まとめ・振り返り等でも)

<具体的な授業改善例について> *以下の資料を参考にしてください。※学校教育支援サイトにもデータを掲載しています。

①全国学力・学習状況調査報告書 ②授業アイデア例(国立教育政策研究所 <https://www.nier.go.jp/jugyourei/r03/index.htm>)





算数

力が付いている問題	県	全国	差
◆三角形の面積の求め方を理解している ② (1) 辺の長さが3 cm、4 cm、5 cmの直角三角形から底辺と高さの関係を的確に捉え、必要な部分の長さを使って面積を求める問題	正答率 61.3%	55.1%	+6.2 ↑
課題が見られた問題	県	全国	差
◆図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを式や言葉を用いて記述する ② (3) 二等辺三角形を組み合わせてできる平行四辺形の面積の求め方と答えを書く問題	正答率 42.7%	46.0%	-3.3 ↓
◆データを二次元の表に分類整理する ③ (3) 二次元の表の二つの観点を捉え、各欄の意味を理解して当てはまる欄を選ぶ問題	正答率 59.6%	67.5%	-7.9 ↓
◆集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきか判断する ③ (5) 5、6年生の読みたい本と読まれている本を調べるために適切なデータを選ぶ問題	正答率 69.8%	73.9%	-4.1 ↓

- * 知識や技能を活用して求め方を考える問題に課題が見られました。
- * 目的に応じて必要な情報を選び出し、それらに関連付けて問題を解決する力に課題が見られました。
- * 「Dデータの活用」領域の問題は、5問全てで全国平均を下回りました。
- * 「算数が好き」「算数がよく分かる」と回答した児童の割合が向上しました。



算数に関する児童質問紙の結果に注目してみましょう	県	全国	差
○算数の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える	83.6%	82.7%	+0.9 ↑
○算数の問題について、わけや求め方などを書く問題で最後まで書こうと努力した	80.6%	79.9%	+0.7 ↑
△算数の勉強は好きだ	67.4%	67.8%	-0.4 ↓
△算数で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える	73.0%	73.9%	-0.9 ↓

全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、授業改善に取り組みましょう

◆統計的に問題解決するために、集めるべきデータを判断したり、データを分類整理したりすることに課題が見られました。

⇒目的に応じて、データを分類整理したり結論を導き出したりする、統計的な問題解決活動の充実が求められる。

<ポイント> 一つの領域として整理された「Dデータの活用」領域で育成すべき資質・能力を学習指導要領解説で確認しましょう。グラフを描いたり読んだりするだけでなく、データを分析して得られた結論を基に、目的を振り返りながら結論の妥当性を吟味したり、さらに追求することがないか考えたりする場を設定することが大切です。

→令和3年度【小学校】授業アイディア例P11～12



◆数学的な見方・考え方を働かせて図形の構成要素等に着目し、必要な情報を選び出し、それらを活用して問題を解くことに課題がありました。

⇒知識・技能を生きて働く力として活用する場面の設定が求められる。

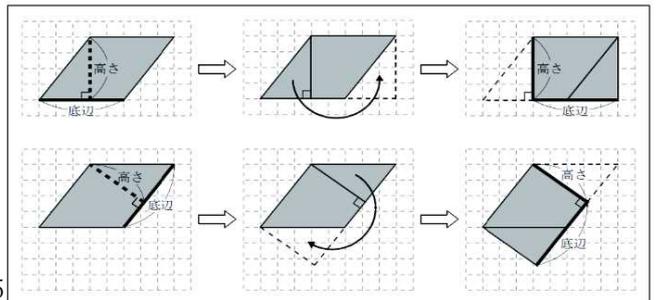


<ポイント> 問題を解決するために、示された場面を解釈し、必要な数量やその関係を捉え、数学的に表現・処理できるようにすることが大切です。その際、既習の知識や技能を活用しながら、児童自らが解決の見通しをもって必要な情報を選び出し、考えたり説明したりする活動を取り入れましょう。適用題や単元末で活用問題を扱うことも有効です。

活動例 平行四辺形の面積を求める公式を導く際に、平行四辺形を長方形に等積変形して面積を求める活動。

図形の構成要素などに着目し、面積を求めようとする図形の辺の長さや位置関係、分かっている図形の辺の長さや位置関係を捉え、面積の求め方について筋道を立てて説明できるようにすることが大切です。

→令和3年度全国学力・学習状況調査報告書（小学校算数）P45



今年度の調査問題は、令和2年度から全面実施となった学習指導要領の領域に沿って作成されています。また、全国学力・学習状況調査問題は、学習指導要領で求められる資質・能力が問題として具体的に示されています。さらに、解答類型による結果分析も行われています。単元や授業を構成する際、児童のつまづきを予想したり手立てを考えたりする参考として活用しましょう。

